

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 原 野里花
所属 文学部
学年 1年

留学先 マラヤ大学

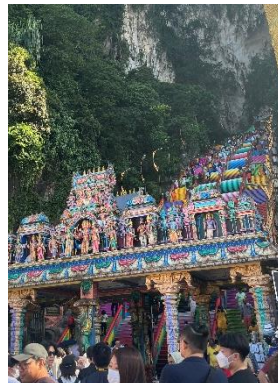
留学期間 2023/2/12~2023/3/5

留学レポート Study Abroad Report

- プログラムに参加したきっかけ
私は以前から、大学生になったら留学に行きたいと思っていました。時間の確保が最もしやすいのが大学生の時期であり、その時期にしかできないことをたくさん経験したいと思っていますからです。しかし語学力が足りないのではないかと、自分に海外での長期滞在ができるのか、といった不安がありました。さらに、留学をして何を勉強したいのか、どのような能力を身に着けたいのかといったことも曖昧でした。そんな風になかなか決めきれずにいたときに、掲示板でこのプログラムを見つけ、興味を抱いたのがきっかけです。プログラムの内容を読んでみて、とても楽しそうで、いい経験にもなりそうだと思います。期限ぎりぎりでしたが申し込むことにしました。留学がどんなものなのか全くわからずに長期留学すると戸惑うことが山のようにあるのが目に見えているので、このプログラムを通して留学を一度体験してみることで、少しでも負担を減らすことができたらいいなと思ったのも参加を決めた理由の一つです。
- プログラムの内容
平日は授業を受けます。授業は3コマあり、1コマ目が9:00~11:00、2コマ目が11:30~13:30、昼食をはさんで3コマ目が14:30~16:30です。1、2コマ目はreading、writing、speaking、grammarのいずれかの授業を受けます。当たり前ではありますが、すべての授業が英語で行われ、質問された時も英語で答えます。先生方が優しい英語を使って下さるので聞き取りに苦労することはそこまでありませんでしたが、自分の意見を英語で伝えるのに苦労しました。先生方や一緒に授業を受けていたバディたちがいつも私のつたない英語を汲み取ってくれたので非常に助かりました。
3コマ目は伝統舞踊・伝統音楽、美術館や博物館への遠足、バディとの自由行動などです。休日は観光地やショッピングモールへ連れて行ってしてくれます。クアラルンプールやブトラジャヤ、マラッカなどに行きました。伝統舞踊・伝統音楽はどちらか一つを選び、クロージングセレモニーで披露します。私は伝統舞踊を選び、チャイニーズダンスという扇子を用いるダンスなどをしました。扇子の扱い方になかなか慣れませんでした。全員の動きが揃ったときは、インストラクターの先生から「花のように見える！」と褒めてもらえました。本番はきれいな伝統衣装を着させてもらえました。



↑天后宮



↑バトゥ洞窟



↑チャイニーズダンス

● 初めての留学を通して分かったこと

1. 英語で自分の意思を言葉にするのは難しい

英語を話す機会があまりない人の場合、英語を読む、聞く、書くことはできたとしても、話すのはなかなかスムーズにいかないことが多いです。英語での表現の仕方が分からなかったり、知っているはずの英単語が思い出せなかったりして、言葉に詰まってしまうことが何度もありました。私はそのようになってしまった時は、自分の覚えている単語や表現を駆使してなんとか伝えられるように努力していました。バディはとても優しいので、上手く言えなくてもあきれたりすることなく、毎回私の伝えたいことが理解できるまで聞いてくれました。

2. 分からないことをそのままにしてはいけない

授業中でもバディとの会話中でも、相手が話している内容が分からなければ尋ねるか、調べることが大切だとわかりました。すぐに辞書やスマートフォンに頼るのはよくないと考える人もいますが、次の機会に活かせるのであれば問題ないと私は思います。頼りすぎるのは避けるべきですが、知っている単語のレパートリーが増えると英語力の向上につながります。また、新たに知った単語を積極的に使えば、さらに定着しやすくなります。

3. 体調管理は最重要

体調を崩してしまえば授業やグループでの活動に参加できなくなってしまいますので、普段以上に睡眠や食事には気を遣うようにしていました。具体的には、0時までには就寝する、就寝前にスマートフォンを長時間見ない、辛い物は食べない、水道水を口に入れない、などです。また、外は暑く、建物内は寒いので、水分をこまめにとることと、上着を持ち歩くことも必須です。三週間という限られた期間しかないので、少しも無駄にしたくないと思い、健康的な生活習慣を心がけました。

4. あらかじめ現地のことをある程度知っておくとよい

夜は外食することが多く、毎日バディが「今日の夜ごはん何が食べたい?」と聞いてくれました。私たちの要望を聞いてバディがどこに行くのかを決めてくれるのですが、聞かれてから悩むことが多かったのも、もう少しマレーシアの料理について下調べしておくべきだったと思っています。また民族構成や宗教についても知っておくことが非常に重要だと感じました。授業で少し教わることもありましたが、生活に深くかかわることであるため、知っておくに越したことはありません。

● 終わりに

このプログラムに参加する前は、自分で申し込んだとはいえ若干不安もありました。しかし、いざ始めてみると本当に楽しくて、あっという間に終わってしまいました。食事や観光地巡りが楽しいのはもちろんですが、授業の内容も面白くて、苦になりませんでした。自分と同じく日本から来ている他大学の学生とも、授業や様々な活動を通して仲良くなれました。私に関わった人々は皆それぞれ自分の考えを持っていたり、何か秀でたものを持っていて、自分も頑張らなければならないという刺激をもらいました。毎日たくさんの新しいことを経験できて、想像していた何倍も充実した時間を過ごすことができました。帰りにバディが空港まで送ってくれたのですが、別れるのが悲しく、班の全員泣いてしまいました。英語をスラスラ話せるようになったとは言えませんが、班のみんなで大笑いすることがしばしばあるほど、楽しんで会話することができました。次会ったときに流暢に話すことができるように、より英語の勉強に力を入れようと思います。このプログラムに参加して、たくさんの貴重な経験ができて本当に良かったです。



↑クロージングセレモニー



↑空港までお見送りにきてくれた時